

第50回全国聖書科研究集会在遺愛で 開催されました！！

11月13～15日に遺愛で第50回全国聖書科研究集会在開催されました。

今回の研究集会的テーマは「道德の教科化に関する答申」を受けて、聖書科ではどのように対応するかでした。基本的にはミッションスクールでは、道德は、聖書の時間で代替できるとのことですが、テキストのこと、評価のこと、今後も代替が可能で有り続けるのかなどが課題としてあります。

また今回のプログラムには、フィールドワークとしてハリストス正教会訪問と祈祷会への参加、トラピスチヌ修道院訪問がありました。いずれもギリシア正教の司祭さん、カトリックの修道女さんの特別な配慮で、プロテスタントの牧師たちを中まで入らせて下さっただけでなく、祈祷会を共に行ったり、写真撮影も認めて下さいました。

遺愛では、キャンパス見学（本館・ホワイトハウス）、授業（弘前聖愛中学高校と明治学院中学高校の聖書科の先生が担当）見学をしたり、朝に生徒と共に礼拝を守りました。全国の聖書科の先生方にとっては、遺愛の生徒の皆さんが、整然と講堂や体育館に入場し、落ち着いて静かに礼拝が守っていることをとても印象深く感じていたようです。

また放課後に、横浜から帰ってきたばかりの吹奏楽局の演奏がありました。とても感動され、喜んで下さいました。



演奏曲目は横浜大会と同じで行進曲『無敵の鷲』、『蒼氓愛歌』『愛吹ヒットパレード』でしたが、特に2曲目の『蒼氓愛歌』には心を揺さぶられたようです。顧問と局員たちとの間の信頼感を強く感じたと口々におっしゃられていました。

2017年11月20日（水）

ハリストス正教会の聖堂内